

cafe talk_10

10号の制作に関わったクリエイターと、enocoスタッフによるカフェトーク。
男性3人だった前号から一転、女性2人で爽やかな昼下がりのティータイムです。



高橋 静香さん（左）デザイナー abenoma.com

1985年大阪府生まれ。2007年成安造形大学写真クラス卒業。2014年より阿倍野にアートスペース+ギャラリー「あべのま」を夫、高橋和広とともにオープンし、不定期で独自の企画展示を行う。また、グラフィック・WEBデザイナーとしても活動中。

野原万里絵さん（右）美術作家 www.marienohara.info

1987年大阪府生まれ。2013年京都市立芸術大学大学院修士課程修了。定規や型紙などの「型」を用い、作るのなかたちを複数うみだしつも、それらをコピーする・消すを繰り返することで偶然性のある新しいかたちを取り入れた平面作品を描き出す。

ninOval cafe

enoco地下1階 営業時間：11:00～18:30（月曜日定休）

ninOval cafeではこの夏、これまでの定番メニューに加え新メニューも登場する予定です。間もなくかき氷もはじめます。定番のイチゴや甘さをおさえて抹茶のほろ苦さがしっかり味わえる大人のかき氷など、今年はフルーツ蜜を使ったシロップも開発中。どうぞ期待ください！



enoco 大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]
Enokojima Art, Culture and Creative Center,
Osaka Prefecture

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指すことを目指し2012年4月にオープン。展示室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー、ワークショップなどを開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番34号

開館時間：10:00～21:00(ただし展示室は11:00～19:00・日曜日は11:00～16:00)

月曜・年末年始休館

電話 06-6441-8050 | FAX: 06-6441-8151

メール art@enokojima-art.jp

www.enokojima-art.jp

enocoニュースレター 10 2016年7月発行

発行 大阪府立江之子島文化芸術創造センター

編集 | 高橋玲子・近藤美智子(enoco 企画部門)

表紙・特集ページデザイン | 高橋静香

アートワーク | 野原万里絵(表紙、p.2-p.5)

イラスト(エノケン、似顔絵) | タダユキヒロ

アートディレクション | 後藤哲也(OOO Projects)

デザイン | 小池一馬(OOO Projects)

「enocoニュースレター」は、enocoが年4回発行する情報誌。enocoで起こっていることや、enocoにかかわる人々が日々考えていることをお伝えしていきます。



[アクセス]

大阪市営地下鉄千日前線・中央線「阿波座駅」下車、8番出口から西へ約150m。徒歩約3分。



10号の表紙

デザイン：高橋 静香 アートワーク：野原万里絵

江之子島文化芸術創造センター/enoco がお送りする「enoco ニュースレター」。表紙と巻頭は、毎号異なる関西のクリエイターたちが担当します。記念すべき10号の特集では、enocoの「ソーシャルデザイン」系プログラムをご紹介。個人の様々な歩をサポートするenocoの取り組みです。

表紙はニュースレター初！のアートワークで夏らしい涼やかなものになりました。

ひとりの人から 広がる未来

enocoが手がけるソーシャルデザイン

enocoの館長を務める甲賀 雅章。実は自身で「ソーシャルデザイン研究所」なるものを立ち上げています。enocoが手がける「ソーシャルデザイン」について、館長の考えを聞きながら、改めて振り返ってみました。

— 館長はなぜ「ソーシャルデザイン研究所」を立ち上げられたのですか？

僕はデザイナーの端くれもあるのですが、デザイナーとは、本来課題を解決する仕事だと思っています。ただ 1990 年代初頭までは企業の抱える課題に対して、いかに力を発揮するかということに目を向け注力していました。例えばいかに商品を売るか、イメージをアップするか、集客をするかといったことです。今も勿論そのような仕事は重要なのですが、僕の場合、社会や地域が多くの課題を抱えている今、デザインの解決能力をそちらの方向に使わないといけないのではないかという考えになってきたのですね。それが「ソーシャルデザイン」に取り組むことになった理由です。企業のプランディング、CI構築をする際にも、必ず社会事業への取り組みは提案し、実施しています。

— 「ソーシャルデザイン」とはそもそもどういったことなのでしょう？

僕が考えるソーシャルデザインというのは、身近な課題を、個人がひとりからできる方法で解決しようという「動きや働きかけ」のことです。デザインというものは課題解決の思考方法ですので、デザイナーという職業でなくてもあるトレーニングをすればできるようになると僕は考えています。要するに、過去の延長線上になると僕は考えています。や従来の仕組み、概念で考えないこと、あらゆることに一度疑問符を持ち柔軟な発想で新たな価値観を創造していく姿勢、それを enoco では「Be Creative」と、ずっと言ってきました。そんなクリエイティブな姿勢や既成を超えた柔軟な発想で様々な課題解決に取り組める人が増えていけば、社会はもっと素敵に変わっていくのではないか。これが、僕の考える「ソーシャルデザイン」です。

— つまり、「人」が大事だと。ひとりの人が発想力を身につけ、自分のまわりの小さな課題に対して小さなアクションを起こし、それによってまわりの人が少し変わっていく… その変化の連鎖が地域や社会の未来をつくっていく、それが「ソーシャルデザイン」ということなのです。

このところ enoco には様々な相談が大阪府内の各地から舞い込んでいます。地域の活性化や社会課題に市民とともに取り組む事業など、様々な場面でアートやデザインが持つ創造力が必要とされていることを実感しています。enoco では「ソーシャルデザイン」をテーマにいくつかの事業を展開していますが、そんな enoco のまわりではどんなことが起きているかをお伝えしていきます。

そうですね。課題をクリエイティブに解決していくには、いつもの身内だけではなく、異なる視点をもつ外部の人々の参加が必要かもしれない。そこで enoco がハブとなり、クリエイターやアーティスト、同じような課題を持つ人たちを結びつけていくことができればと思います。そうすることで、社会や地域の課題への取組みに、新しい一手を投じができるようになるのではないかでしょうか。

— 「ソーシャルデザイン」というと、「みんなで持っているアイデアを出し合って、この課題を今、抜本的に解決するんだ！」という、すごく大それたものを想像してしまいますが、そうではないのですね。

そうですね。少し先の明るい未来を想像し、それに向かって、ポジティブに、クリエイティブに問題に向かう姿勢を持つという、ほんの些細なことです。素敵な未来の姿を描いてみる、どうしたらその未来が実現できるだろう、そのためには「今」やることは何だろう。そんな楽しいことを、今までとは全く違う発想で考えてみる。それを「バックキャスティング」と言いますが、そういうことができる人が少しでも増えることが一番の鍵です。また、「クリエイティブ」とは、ある種の創発的エネルギーです。仲間が少しづつ集まってくれば、解決できる問題も増えていくと思うんです。

— そのために enoco は、様々な人たちがそれぞれの課題を持ち込むことのできる窓口をつくっているんですね。enoco 自身が事業を仕掛けるだけではなく、課題解決を望む人たちとの接点をつくり、その人たちが変わるお手伝いをしています。

— enoco は開館から 5 年目を迎えました。その中で取り組んできたことが、少しづつ成果として出て来ているように思います。その時、思い浮かぶのが、enoco に関わってくれた方々の顔です。最初は点と点だった人たちが、複数の事業に関わっていただくことで、だんだんと線になり、面になっていく、それが少しづつ見えてきたように思います。クリエイター やアーティストだけでなく、府民の方、行政職員の方という、いわゆる「クリエイティブ」なことを生業としているわけではない方もその中には含まれます。そういった方が自らの新しい一步を踏み出す姿をみながら、私自身も enoco が手がけている「ソーシャルデザイン」についてだんだんわかってきたような気がします。「今わかったんかい」という話ですが（笑）

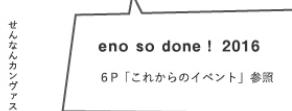
大阪には「オモロイ人」がたくさんいるので、そういう人たちの一歩にたくさん立ち会っていきたいですね。

enocoの「ソーシャルデザイン」

ひとりひとりが考え方を少し転換し、ちょっとしたアクションを起こすこと。それが社会や地域の課題に向かう「ソーシャルデザイン」の第一歩。enocoではそのサポートを中心とした事業を展開しています。今まで大阪府内の様々な市町村の課題と関わってきましたが、その事業の簡単な紹介とともに、その後、その事業に関わった人々がどのような一步を踏み出したかを追ってみました。

eno so done !

アートや文化を活用した地域活性化、各種事業の広報力アップや組織のプランディングなどに取り組む行政マンや地域の方々、今のやり方に疑問を感じていたり、新規事業の立案を考えている方々などが日々抱える悩みの相談を受け、ヒントを見出していくだけのようサポートする事業です（2014年度～）。



わがまちカンヴァス事業

enocoニュースレター vol.5でも取り上げた「わがまちカンヴァス」。大阪府が実施する「おおさかカンヴァス推進事業」で蓄積された公共空間活用のノウハウや理念を、大阪府内の市町村でも活用してもらうべく、アートやデザインを通じた地域課題への取組みの支援を行う事業です（2013年度～）。

その後の一歩

河内長野市都市魅力戦略課 Hさん（2014年度相談）

大阪のベッドタウンである河内長野市のシティプロモーション戦略について、専門家の河井孝仁先生のアドバイスを受けた市の職員の方が、その明瞭でロジカルな思考に感銘を受け、その後自ら先生にアタック。遂には先生が代表を務める公共コミュニケーション学会の関西支部を立ち上げてしまいました。今も関西で積極的にシティプロモーションを推進する市町村とネットワークを広げて、研鑽と情報共有を進めています。2015年度にはenocoと共にフォーラムも開催しました。

enocoの学校

今年で4期目を迎える「enocoの学校」。クリエイティブな発想で社会を変えようと真剣に考える人材を育成するプログラムです。関西内外から多彩な講師陣を迎えての講義・ワークショップのほか、社会課題解決の現場を訪れるフィールドワーク、受講生間での自主ワークショップなどを実施し、最終的には一般公開で企画のプレゼンテーションを行う、約半年間に渡る講座シリーズです。提案するだけで終わらず、プロジェクト化していくことを目指しています。

enocoの学校第4期 [ソーシャルデザイン入門コース]

今年も2016年7月から2017年3月まで、enocoの学校を開催します。今年度も多彩な講師陣を迎えての講義、受講生同士でのワークショップなどを経て、2017年3月4日に一般公開にて企画のプレゼンテーションを行います（受講生の募集は終了しました）。活動の様子は「enocoの学校」Facebookページなどで発信していきます。

その後の一歩

大阪おせっかい研究所（2014年度2期生）

2期生の中の一つのチームが提案した企画から生まれた活動が、現在も大阪市内を中心にイベント等を行なながら継続中。大阪人の長所ともいえる「おせっかい」。「相手が喜ぶおせっかい」ができる人を増やすことで大阪を世界的に魅力のある都市に進化させることを目指すべく「洗練されたおせっかい」について研究し、イベントなどで伝える活動をしています。目の前の相手に対する振る舞いから街を変えていくという試みは、じわじわと賛同者を増やしています。



enocoの学校 2015 講義（ワークショップ）風景

番外編

えのこじま凸凹ラジオ

enocoではenoco周辺だけで聴こえるミニFM局でラジオ放送を配信しています。ごくごくローカルなエリアでしか聞くことのできないラジオ。放送をしながら江之子島（2丁目）という街を見守り、ラジオを通して街の人々と少しずつ出会い、交流の輪を広げていくこうとするプロジェクトです。ひとつのラジオ型ブースから始まるコミュニティづくり。これもenocoが手がけるひとつのソーシャルデザインかもしれません。





これからのイベント情報

各イベントの詳細・申し込み方法はホームページをご覧ください。

今年もみんなの相談お聞きします！

enocoのそうだん[eno so done!]2016



地域課題や社会課題に取り組む行政職員や民間団体、まちづくり活動などに関わる市民が抱える悩みや問題に対して、アドバイスやヒント、スキルや情報の提供などをを行い、それぞれの活動をサポートする「enocoのそうだん[eno so done!]」。

昨年は「市民協働」「戦略的な広報」「都市とアート」の3つのテーマごとに専門家やプロジェクトに取り組む行政職員やアーティストを招いてフォーラム形式で開催し、議論を深め課題解決のヒントを探りました。

今年度は課題を持つ方々の声を直接伺い、アドバイザーが助言やヒントを提供できるよう、個別相談会形式で実施します。

実施時期については、2016年8月より相談のテーマ・分野ごとに、3回に分けて開催する予定です。該当するテーマ・分野に関する事業などに取り組んでいる皆さん、ぜひこの機会をご活用ください。

[eno so done! 2016: 実施予定]

- ・第1回：2016年8月下旬
- ・第2回：2016年9月下旬
- ・第3回：2016年12月上旬

※各回の詳細及び実施日時は改めてenocoホームページ等でご案内いたします。

※相談会は行政職員を中心に公的機関や民間団体等を対象に行なう予定です。

Artist Support Program enoco[study?]#4 公募スタート



2013年にスタートし、今年で第4回目を迎えるアーティスト・サポート・プログラムenoco [study?].

「社会や他者との関わりを通してアートの可能性を拓くこと」について、能動的に問い合わせ立て、実践するアーティストを募集します。

入選アーティストはenoco館内のギャラリーにて開催する展覧会に向け、3ヶ月間制作を行います。制作はenocoと対話・協働しながら進めること、制作プラン・プロセスを一般に公開することを条件としています。また、募集期間の9月には、過去の入選アーティストと審査員による当時のエピソードや、その後の活動などを話すクロストークと募集説明会を行いますので、お気軽にご参加ください。

—

[クロストーク・募集説明会]

日時：2016年9月11日(日)15:00～17:00

会場：enoco 4F ルーム1

登壇者：友枝栄、堀川すなお、湯川洋康、中安恵一、平田剛志(#1～3審査員)ほか

[募集期間]

2016年8月1日(月)～9月30日(金)必着(郵送または持参)

[募集人数]1名(もしくは1グループ)

[応募条件]2016年9月末日時点40歳以下であること。経歴・国籍不問。日本語でのコミュニケーションがとれること。

[サポート内容]

制作用アトリエの無償貸与、制作補助費10万円の支給

[スケジュール]

制作期間：2016年12月～2017年2月

成果発表展覧会：2017年3月11日～3月30日(約3週間)

えのこdeマルシェvol.06 おとな夜市



春・夏・秋・冬と季節ごとに開催している「えのこdeマルシェ」。夏のマルシェは昨年も大好評だった夜に開催!テーマは「おとな夜市」です。

大阪の地ビールや美味しいご飯やアイスなど、暑い夜にぴったりのお店が盛りだくさん。夜市につきもののゲーム屋台や、占いや手作り雑貨のお店なども参加予定です。夏の風物詩 夜の「えのこdeマルシェ」にご家族や友人みんなで遊びに来てください。

—

日時：2016年8月27日(土)16:00～21:00

会場：enoco 屋外駐車場 ほか

入場無料/小雨決行

[出店店舗(予定)]

旅する屋台 THE〇〇カレー、タコス屋台 El calavera、道頓堀麦酒醸造株式会社、ON THE BOOKSのポップコーン屋さん、京都ぎょくろのごえん茶、アトリエカフエのスマートボール屋台、出来ぬ占カマタ、Private Talk Shop(yam Yam・西武アキラ・タダユキヒロ・makomo)、株式会社POS建築観察設計研究所、Little coin 5 minutes 占い、レコード曲げ屋 strange stretch records、FOLK old book store、FACE SHOP ほか

[イベント(予定)]

「えのこじまサイレントナイト」

ラジオを聴いている人にしか聞こえない、ラジオリスナーのための無音ライブを開催します。怪談話やDJなど多彩な出演者を予定しています。ラジオとヘッドフォン持参推奨。会場内でラジオレンタルもありますのでお気軽にご参加ください。

会場：江之子島無音ステージ

協力アーティスト：毛原大樹

2016年度新プロジェクト始動 パブリック リ・デザイン



メッセージや情報を正しく効果的に伝達するためには、優れたデザイナーの能力が不可欠ですが、生活や生命に関わる重要な情報を日々発信する地方自治体や公的機関が発行する公的なチラシやポスター、WEBサイトなどの情報媒体に、プロのクリエイターが関わる機会は、非常に限られています。そのようなデザイナー不在の媒体が生み出される背景には、「デザイン」を「業務」としてデザイナーに依頼できない、行政特有の制度的な課題が横たわっています。そこでこれまでも行政課題の解決に取り組んできたenocoでは、公共のデザインがどのように行われているのかその状況をリサーチすると共に、実際にデザイナーと公的機関の協働をコーディネートして制作を行い、そのプロセスと成果を展示します。会期中にはデザイナーによる相談窓口やパネルディスカッションの開催も予定。ぜひご期待下さい。

—

展示期間：2016年12月13日(火)～12月25日(日)※予定

会場：enoco 1F ルーム4

入場料：無料

※詳細についてはenocoホームページ等で順次公開しています。

エキシビションカレンダー 2016年7月 - 9月

月	会期	展覧会名	ルーム
7	6/21(火) - 10(日)	Private Talk	[ルーム4]
	12(火) - 17(日)	3.大阪成蹊大学芸術学部美術コース表現教育コース3年生展	[ルーム1,2,3]
	12(火) - 17(日)	詹徳秀現代絵画展	[ルーム4]
8	19(火) - 24(日)	大阪二紀展	[ルーム1,2,3]
	24(日)・26(火) - 31(日)	都市アーキビスト会議2016 「都市を予約する」	[ルーム4]
	29(金) - 31(日)	curious by curious	[ルーム2]
9	16(火) - 21(日)	羅秀美 個人展	[ルーム2]
	1(木) - 18(日)	大阪府20世紀美術コレクション 須田剋太展-『街道をゆく』挿絵原画 海外のみちをゆく-	[ルーム2,3]
	6(火) - 11(日)	2016第11回 白亜京奈支部展 併催 洋水会展	[ルーム4]
9	20日(火) - 25(日)	第1回 種展	[ルーム4]
	27日(火) - 10/2(日)	吉田脩二 井上和雄 それぞれの個展	[ルーム1]
	27日(火) - 10/2(日)	現代水彩画会小作品展	[ルーム4]

くわしくはホームページをご覧ください <http://www.enokojima-art.jp/>

PICK UP

大阪府20世紀美術コレクション

須田剋太展-『街道をゆく』挿絵原画 海外のみちをゆく-

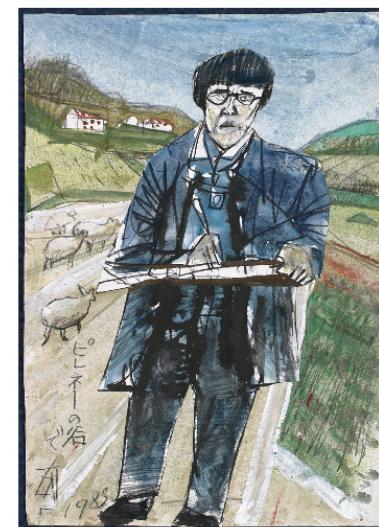
1971年より「週刊朝日」にて連載されていた司馬遼太郎による歴史紀行『街道をゆく』。その挿絵を連載当初より1990年まで担当した須田剋太による『街道をゆく』挿絵原画展を開催いたします。須田は1906年に埼玉県で生まれ、1941年に関西へ転居し、抽象画と具象画、両方を描き活躍した画家です。大阪府は1990年にその挿絵原画1861点の寄贈を受けました。『街道をゆく』で須田が司馬とともに旅し描いた街道は、日本各地の諸道と海外(モンゴル、中国、オランダ、アイルランド、フランスなど)も含め、63ヶ所にも及びます。今回の展示ではその作品の中から、ヨーロッパとモンゴルを描いたものを中心にご覧いただけます。風景スケッチでありながら大胆に切り取られ、構成された画面、そのダイナミックな筆致で描かれた作品群をどうぞお楽しみください。

会期 | 2016年9月1日(木)~9月18日(日)

11:00~19:00 ※月曜休館

会場 | enoco 4F ルーム2・ルーム3 入場料 | 無料

主催 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco)



「ビレーネの谷で」須田剋太／1983年／グワッシュ・紙

展覧会 & イベントレビュー

Private Talk

(2016年6月21日~7月10日)

イラストレーターのプライベートに何を期待するか。情熱大陸のような密着型ドキュメンタリーだったら、打ち合わせ現場から始めて、アトリエでの制作と軽い息抜きのシーン、夜の酒場で知人友人からの声を拾って、翌日は近づく綺麗にイラスト模様…。ってあまりに予定調和かもしれないが、それほど人の日常生活の大枠には大差なく、それをどういう顔と機嫌でやっつけて、どんな言葉で語るかが見どころに違いない。

関西を拠点に活動する6人のイラストレーター(タダユキヒロ、とんぼせんせい、西武アキラ、makomo、山内庸資、yamyam)が、プライベートをテーマに制作、展示するという「Private Talk」展。きれいに区分けされた壁面ごとに個々の作品が配され、展示環境が揃っている分だけ、余計に6人のスタイルの違いが際立つ展示になっていた。で、肝心のプライベートだ。中には、自身の日常生活を題材にした作品もあったが、もちろん派手に飛びまるような日常ではない。だからというわけではないだろうが、6人が集まつたトークの場では、話の矛先がお金に向かうことが多かった。最高のギャラと最低のギャラ、納品後にギャラを値切られた話、1カットあたりの金額…。赤裸々トークといえば、お金の話でしょという暗黙の期待に応えてのことかもしれないが、だけど実際、他人のお金の話なんて知ったこっちゃない。むしろ、そのことを話すトーン、口ぶりによほど各々のプライベートと個性が表れているなど感じた次第。

という意味では、会場からの質問「好きなイラストレーター」に対する即興の解答が興味深かった。山内さんはエリザベス・ペイトン、西武さんはしりあがり寿、とんぼせんせいはParra、タダさんは鳥山明、yamyamさんは堀内誠一、makomoさんはいない、との返答にふむふむ…。作品を見る上では、作家を知ることは時にノイズにもなる。けど編集者の立場で言えば、知ることは何でも知っておきたい、とか。そんなことを思った展覧会とトークだった。

竹内厚

1975年生まれ。編集者。雑誌やムック本、フリーペーパー、ウェブマガジンの編集、執筆を手がける。KIITO、ロームシアター京都、DANCE BOX、KAVC、京都精華大学、京都造形芸術大学ULTRA FACTORYといった施設の広報誌・機関誌にも携わる。

展示協力: NO ARCHITECTS

共催: DECOBOCO



展示風景



イベント風景(「イラストレーターミーティング」)



これまでのイベント

enoco×タチヨナ企画 おとなと子どものワークショップ ストーリーテリング・イン・サウンド -英語でコミュニケーションする音楽ワークショップ-

(2016年5月21日)

デンマーク出身の音楽家であるヤコブ・ドラミンスキーさんを講師にお招きし、音楽ワークショップを開催しました。

ヤコブさんは長期にわたりクラシックやジャズユニットの為の作曲等を手がけてきましたが、現在は主に即興音楽や舞台音楽等のフィールドを中心に活動しています。

今回のワークショップでは、前半に楽器ではないものの(紙)から音、そして音楽を創造する体験をし、後半では日用品を利用して、さらにその音を発展させ、グループごとにテーマを設定し、即興で演奏を行いました。楽器ではないものを利用しての音楽作りに最初は戸惑っていた参加者たちも、最後には楽器も楽譜も必要ない、新しい音楽との出会いを楽しんでいました。

高橋真理子／enoco企画部門



「えのこじま文化祭 2016SS」開催

(2016年5月14日)

5月の爽やかな土曜日。enocoに隣接するマンション(阿波座ライズタワーズフラッグ46)1階に2016年3月にオープンしたスペース「フラッグスタジオ」のお披露目企画(街めぐりイベント)として「えのこじま文化祭」が開催されました。

当日、enocoの恒例イベント「えのこdeマルシェ」も開催。マーク・フラッグ両スタジオではヨガ・卓球・太極拳の体験教室や音楽ライブがひらかれて、多くのお客様で会場は大賑わい。また、各会場で開催されているイベントを繋ぐ役割として、「えのこじま凸凹ラジオ」も放送。ラジオレポーターがイベント会場から生中継を行ったり、放送席にはライブ出演者やマルシェ出店者がお土産持参で登場するなど、広い会場でありながら人と情報が行き交う賑やかな1日となりました。

文化祭は秋にも開催予定。江之子島の街の新たな名物イベントとなりそうです。

吉原和音／enoco企画部門



[eno so done!]2015 連続フォーラム:第3回「アートは都市に何をもたらすか」 (2016年3月4日)



フォーラムの様子



左:忽那裕樹氏 / 右:廣野研一氏



左:北澤潤氏 / 右:曾我部昌史氏

社会のさまざまな課題に取り組む行政や市民の相談を受ける[eno so done!]。2015年度はテーマごとに専門家を招き、フォーラム形式で課題解決のヒントを探りました。

「都市とアート」をテーマにした3回目のフォーラムでは、大都市の再開発で生まれたまちのマネジメントや、地方の小さな地域のコミュニティ・まちづくりに関わる建築家・ディベロッパー・美術家を招き、それぞれが関わるプロジェクトを通して、都市の視点からアートを考える議論を行いました。

まず最初に建築家の曾我部昌史さん、現代美術家の北澤潤さん、グランフロント大阪のタウンマネジメントに携わる廣野研一さん、enoco PF部門ディレクター忽那裕樹より、それぞれの取り組みが紹介されました。

後半のディスカッションでは、クリエイティブな行為・視点とアートの役割や力、それを活かす都市あるいは社会のあり方をめぐる様々な意見が交わされ、曾我部さんからは、個人の個性や地域の色々な価値が変化している中で、価値や個性をどう受け止めるか?どう紡ぐか?その視点がクリエイティブの役割ではないかとの話が挙がりました。北澤さんは、だれもが持っているある種の弱さを強さに変える、輝かせる力がアーティストにはあり、それがアートプロジェクトの持つ力ではないかとの問い合わせを投げかけ、廣野さんは、生まれ変わる都市が持つ文化や品格がそこで働く人々の生き生きとした関わりによって育ち、都市に活力を与えていくことを、グランフロント大阪などの取り組みを例に示してくれました。

普段感じている都市の魅力や価値評価も一度疑ってみると、個人や地域の個性が改めて見えてくるとともに、アートやクリエイティブな行為・視点はその価値に疑問を投げかけるきっかけになります。そして、アートプロジェクトは新しい価値や個性を発見するための手法でもあり、そのプロセスを繰り返し、実験を重ねていくことが、都市や地域に新しい価値をもたらす可能性につながると改めて感じたフォーラムでした。

松本拓／enoco企画部門



enoco のひとびと



気付けば今年も半分を過ぎてしまいました。スロースターターのenocoでも、ボチボチと今年度の事業が始動しています。今年初め取り組む新しいプロジェクトもありますのでご期待下さい。その一方、今年度は指定管理期間の最後の年。この5年間を総括しつつ、来年度のプロポーザルに向かって…。【チーフディレクター 高岡伸一】

enocolumn 10

「人々の想像力と豊かな空間」

私は建築設計を生業としており、今年3月、独立する契機となった「木津川遊歩空間整備事業」が3年半という歳月を経て部分的にオープンし、一般利用が開始されました。

このプロジェクトは、従来採算性や交通等都市の原理を基盤として設計されるインフラ施設を「ちいさな人の居場所」から考えようという挑戦もあり、例えビニカルに行なったときにみんなが場所の様子を手掛かりに自分の陣地をみつけるように、遊歩道を訪れた人々が「自分の場所や使い方」を想像できるような空間を目指して設計しました。

特定の場所に固定されたベンチなどは設置せず、遊歩道沿いに高さや奥行きの違う段差をひらいた壇状に配置するだけなのですが、無数にある段差はどこでも登り、座ることができるようになります。

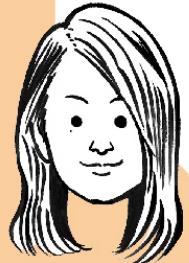
岩瀬 謙子

いわせ・りょうこ

建築家。東京藝術大学建築科教育研究助手。京都大学非常勤講師。隈研吾建築都市設計事務所勤務を経て2013年に岩瀬謙子設計事務所を設立。建築空間からパブリックスペースまで、領域にとらわれない設計活動を行う。

ます。その中に、「みんなの様子を眺められる高いところ」、「たたずめる木陰」、「橋がよくみえる場所」等をさりげなくちりばめました。

いざ供用開始して訪れる人々の様子を観察していると、想定通り段差を遊具のように飛びまわる幼稚園児などが現れる一方、舗装の上に寝そべりはじめめる女子高生、歩道沿いの花壇に勝手に種をまく近隣住民や、施工上の理由で残された仮囲用のフェンスと段差のわずかな隙間にまで拵まって遊びはじめると、自分の想像を超えるリアルなシーンたちが眼前に現れました。設計者として、これらの小さくもすがすがしい裏切りたちに心地よさを感じると同時に、こういった訪れる人々の主体的な想像力こそがこの場所をつくっていくのだろうと、未来の姿を垣間見たような気持ちにさせられています。



Voyage d'Art
アートの航海

enoco 館長甲賀雅章の

Vol.6



「アート系フェスティバルの社会成果」

日本でも最近注目され始めているのが、演劇、ダンス、サークルなどの身体表現を、劇場ではなく主に屋外で見せる「Street Theatre Festival」(以下STF)である。ヨーロッパでは以前からボビュラーである。5月僕は韓国の安山市に向かった。「STF」の「社会成果とは?」をテーマとしたシンポジウムに参加するためだ。

「STF」は、公共空間の使い方、風景を変えてしまう。観客と演者の関係性も変わってくる。演劇やダンスはお金を前払いして見るという通念も変えてしまう。道路や公共空間が開放された劇場となり、誰もが平等に、多彩な表現を自由に楽しむことが出来る。照明・舞台美術・音響などで完璧に演出された作品を、閉ざされた劇場空間で見るのとは明らかに違うインパクトがある。Festivalを通して、芸術の表現・鑑賞の機会が増



えることは、アーティストにとっても観客にとっても望ましいことであるが、果たしてそれだけで地域に根付くのだろうか?あるいは、行政や企業はサポートし続けられるのだろうか?

日本の場合、すぐに持ち出されるのが経済効果である。何人が感動したのかではなく、何人がそこに来たのかを評価とする。今後、経済効果以外の社会成果を明確に理論武装、証明していくないと、アート系のフェスティバルはどんどん姿を消していくだろう。

「ジャンルを問わず、アートは既成や規制を壊していく、人々の意識を変えていくところに意味がある」と僕は信じている。しかし、それが果たして社会成果と呼べるのか。僕にはまだ、明確な解が用意されていない。100年以上続いている祭の社会成果とは、一体何なんだろう。



今年の初めに受けたワークショップ以来、無意識のうちにカタカナ言葉を多用する癖がついてしまい、時々自分でも言っていることがちゃんと伝わっているか怪しく思っています。前から話しが長いといろんな人に注意を受けているのに、ますます日本語喋るのが下手になっています。【プログラムディレクター 松本拓】



関東から関西へ、5月に新しくenocoにやってきました。新しい出会いと共に、領域を超えていろんな人が交錯するコミュニティのあり方に新しい刺激を感じています。enoco初心者の私ですが、はじめてだからこそ見つける江之子島の魅力を、みなさまにお届けしていきたいと思います!【アートコーディネーター/広報 近藤美香子】

大阪府20世紀美術コレクション

1987年から2007年にかけて大阪府が収集した「大阪府20世紀美術コレクション」。総数およそ7900点の中から、enocoスタッフのおすすめ作品を毎号1点ずつご紹介します。

この一点!



「アトム・スーツ・プロジェクト-大地のアンテナ-」 ヤノベケンジ(1965-)

2000年 | サイズ可変
プラスチック、ガイガーカウンター、写真、ライトボックス

「ジャイアント・トラウト」や「サン・チャイルド」など、観る人々を大きな物語の中にぐっと引き込むようなインパクトの強い作品をつくり続けている大阪の現代美術家・ヤノベケンジさん。実は「大阪府20世紀美術コレクション」でも1点ヤノベさんの作品を所蔵しているのです。

16年前の作品「アトム・スーツ・プロジェクト-大地のアンテナ」は、京都の六波羅蜜寺にある空也上人像を模したヤノベさん自身の像とそれを取り巻く数百体の小型人形などで構成されています。人形たちは「アトムスース」という放射線感知服を身にまとめており、小型人形の中にはガイガーカウンターを持っている者も。空間に存在している放射線を感じしてアラームを鳴らします。

目に見えない放射線、そしてこの世界で日々起きている様々な出来事を敏感に感知し、その上でどう生きていくのかを常に考え、空也上人の踊り念仏のごく作品を通して

人々に伝えていこうとするヤノベさんの思いを感じる作品です。実はこの作品、この夏高松で開催されるヤノベさんの個展に出品されます(中心の像は写真とは別のが展示)。この機会にぜひ実物をご覧ください!

(ヤノベケンジ シネマタイズ!高松市美術館にて
7/16~9/4開催)

高坂 玲子
enoco企画部門

オン★ザ★レビュ

enoco地下1階の古書店、オン・ザ・ブックス米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・オカルトまで、多彩なインナップの中から、今の気分をあらわす1冊をご紹介いただきます。



立体で見る [星の本] 杉浦康平 北村正利

ここ2~3年でじわじわと盛り上がりを見せる宇宙ブーム。映画、イベント、関連グッズなど、様々な場所で目にすることが増えました。そんな中で手に取って見ていただきたい、1986年発行のこちらの1冊。サイバーパンクよろしく、赤と青のフィルムメガネをかけて読む立体星座の本です。このアナログ的なゆる~い飛び出し感が最高です。小学生向けの科学の本なのですが、著者は天体物理学の権威であった天文学者・北村正利氏、宇宙とデザインを繋ぐグラフィックデザイナー・杉浦康平氏の2人。なんと発行までに13年の年月がかかったそうで、その道のプロフェッショナルが本気を出した隠れた名作です。



ON THE BOOKS

営業時間: 11:00~20:00(月曜日定休)
掲載の書籍は店頭・オンラインストアで
販売中 www.on-the-books.info



米田 雅明
オン・ザ・ブックス店長

enocoのある大阪市西区江之子島では、
アートやデザインのちからで、くらしをより楽しむための
文化活動「DECODOCO(デコボコ)」が行われています。

www.enokojima.info



6/10にフラッグスタジオで、アートユニットNerholの飯田竜太さんをゲストに「DECODOCOギャザリング#6/Nerholと飯田と阿波踊」を開催しました。 影刻家として自身の活動や制作について熱くトーク。最後に大学生の頃より嗜んでいた阿波踊りを披露して頂き拍手喝采。ちょっと変わったトーキイベント「DECODOCOギャザリング」、次回は10月の開催を予定しています。 [DECODOCOスタッフ 小池一馬]

アジアを旅するイベント「MobileTalk」、 江之子島からはじまります！

MobileTalkは、LCC/Airbnbが普及した移動の時代における、アジア都市間の流動的なコミュニティを生み出す試み。大阪のクリエイティブ・プラットフォーム「OOO Projects」と香港のデザインエージェンシー「Milkhshake」が協働で企画・運営し、アジアの都市を移動（モバイル）するトークイベントです。2016年は、「Independent/Collective（個と集合体）」をテーマに、大阪、香港、そして台北で開催。東アジアのクリエイションの先端を走る、デザイナー、キュレーター、編集者、アーティストらが集い、ゆるやかなネットワークを形成するための対話を行います。

'Mobile Talk #01 OSAKA'

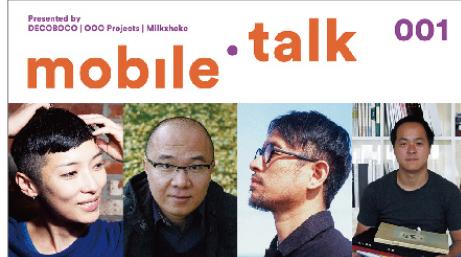
日 時： 7月30日(土) 15時～18時

場 所： フラッグスタジオ

料 金： 4500円※軽食＆ドリンク付（前売4000円）

ゲスト： ナ・キム（韓国／グラフィックデザイナー）、オウ・ニン（中国／キュレーター）、キース・ラム（香港／ニューメディア・アーティスト、Makerスペース「LAB」主宰）、ヤン・ヨウ（中国／独立系写真出版社「Jiazhazi Press」主宰）

※詳細は[enokojima.info](http://www.enokojima.info)をご覧ください



左からナ・キム、オウ・ニン、キース・ラム、ヤン・ヨウ

ドイツの現代戯曲をリーディングで上演します！

「いけない、この惑星じゃない！」——自閉症やアスペルガー症の人は、この世界をそんな風に感じています。彼らにとって定型発達者の言動は奇異で理解しがたいことばかり。自閉症者が周囲にうまく馴染めず、違和感を感じる情境をOops, wrong planet!症候群と表現します。彼らは医学博士号を取得したり、優れた計算能力で地球上の海水の体積を瞬時に算出してしまうかと思えば、デパートでの試着や同僚との日常会話、あるいは夕食が定刻どおりに始まらないことをひどく難しく感じます。

ドイツ人作家ゲジーネ・シュミットは、5人の自閉症＆アスペルガー症、その家族にインタビューを繰り返し、彼らの世界を「普通」から「逸脱」した多様な個性として一つの戯曲にしました。「普通」と「逸脱」の定義って何？ 同作品を劇団dracom代表の筒井潤がG・シュミットとのW演出でリーディング公演に仕立てます。

ドイツ同時代演劇リーディングシリーズ VISIONEN Vol.7

「いけない、この惑星じゃない！」（作：ゲジーネ・シュミット）

日 時： 9月3日(土)・4日(日) 14時開演(全2回公演)

料 金： 大人1500円／学生1000円(一律)

※要事前申込み／詳細は大阪ドイツ文化センターのウェブサイトをご覧ください。



ゲジーネ・シュミット 筒井潤

イスラエルから本格ダンス ワークショップがやってきます！

クリエーションとショーアイントの過程に参加できる4日間集中クラス。テクニックのみでなく、ダンサー やクリエーターとして必要な要素を認識することができます。また、海外でプロフェッショナルダンサーとして活動する為に重要なポイントに気付く体験にも。自身の可能性を追求し世界を広げたい方に、ぜひ受講をお勧めします。

—

「日本・イスラエル国際ダンスプロジェクト」

日 時： 9月8～10日 ダンスワークショップ

9月11日 ワークショップ受講者と講師による
スタジオショーアイント

場 所： フラッグスタジオ

定 員： 20名

受講料： 全日程 20,000円(学生 18,000円)

9月8日(木)クラスのみ単発受講可(1クラス 2,800円)

助成：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

後援：駐日イスラエル大使館

お申し込み、お問い合わせはウェブサイトまで

www.enokojima.info

ダンス経験は問いません！



イベントスケジュール

7月	26日	10 th TERRAのガラスの 花器を作るワークショップ
	30日	アジアを旅する移動型トークイベント 「MobileTalk #1 OSAKA」 登壇者：ナ・キム（韓国／グラフィックデザイナー）、オウ・ニン（中国／キュレーター）、キース・ラム（香港／ニューメディア・アーティスト、マイカースペース「LAB」主宰）、ヤン・ヨウ（中国／独立系写真出版社「Jiazhazi Press」主宰）
8月	5日	ドイツ文化センター／ハンブルク・ドイツ劇場 原サチコさんトーク＆上映会
	13日	ル・ボスケ フラワーアレンジメント教室 講師：向井真由美さん
	27日	マルシェ関連イベント（未定）
	28日	「能のことばを読んでみる会」 講師：朝原広基さん
9月	30日～	ドイツ文化センター／
	9月4日	ゲジーネ・シュミット&dracomワークショップ
	8-11日	イスラエル国際ダンスワークショップ

その他、卓球教室やヨガ教室なども定期的に開催中。
くわしくはFacebookページ、江之子島情報サイト
(www.enokojima.info)をご確認ください。

